

政策評価シート（令和元～4年度）

分野	1 観光・交流
----	---------

評価責任者	所属	経済局
	氏名	稲葉 光

政策	4 まちなかの魅力向上により賑わい創出を推進します
政策の目的	<p>【求心力の向上が求められる中心市街地】</p> <p>○静岡地区中心市街地では、高次都市機能の集積などにより一定の賑わいを創出しています。</p> <p>○清水地区中心市街地ではウォーターフロントなどを活かした賑わい創出への取組が行われています。</p> <p>○静岡地区、清水地区ともに、歩行者通行量が長期的な推移として減少傾向にあります。</p>

(1) 総合評価

評価	C：政策の目的が達成されていない
理由	<p>令和2年度～3年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止を目的とした各種イベントの中止や客船の寄港数の減少、外出の自粛により両地区とも実績値が目標値を大きく下回る結果であったことから、「C」評価とした。</p> <p>ただし、ウォーターフロントの賑わいづくりに向けた清水港の整備やまちづくり組織への活動支援などの取組は継続して実施したことや、令和3年度においては人数制限などの感染対策をしながら一部のイベントを開催したことで、今後の賑わい創出に向けた基盤の整備や機運の醸成は推進できたと評価している。</p>

※【評価基準】S：政策の目的が十分に達成されている。A：政策の目的が達成されている。B：政策の目的があまり達成されていない。C：政策の目的が達成されていない。
 ※総合評価は、原則、指標の達成状況（達成率）に基づき判断する。ただし、指標の分析結果や指標以外の成果等により、指標の達成状況（達成率）と異なる評価とする場合は、その理由を必ず記載すること。

(2) 成果指標

指標名	現状値	R4目標値	実績値 (R4.3末時点)	達成率(%) (R4.3末時点)	評価	目標値の算出根拠
①静岡地区：歩行者通行量 ②清水地区：観光客数 ※静岡市中心市街地活性化基本計画指標 現状値：①6,538人②648万人(2019) 目標値：①7,123人②686万人(2022)	①静岡地区	7,123人	5,680人	79.74%	c	「静岡市中心市街地活性化基本計画」第2期計画の令和3年度目標値が7,123人であったこと、平成25年～30年の歩行者通行量が横ばいで推移していたことから、第2期計画の目標数の維持を目標値とした。
	②清水地区	686万人	377万人	54.96%	d	「静岡市中心市街地活性化基本計画」第2期計画の令和3年度目標値が677万人であったこと、平成25年～30年の観光客数が平均約9万人/年で増加していたことから、677万人に9万人を加えた686万人を目標値とした。
					—	

※【評価基準】s：既に目標値を達成している、a：目標値を達成する見込みである、b：目標値をやや下回る見込みである、c：目標値を大幅に下回る見込みである

(3) 第4次総合計画に向けた見直し等

○静岡都心では歴史や文化資源、清水都心では海洋文化、草薙・東静岡副都心ではスポーツ・文化芸術を中心とするを地域の特色を活かした取組みを進め、都心・副都心同士が連携し、市域全体の活性化を図っていく。
--

(4) 政策を構成する施策及び主要事業

施策1	まちなかの賑わいを生み出すイベントの推進		
総合評価結果	R元	R2	R3
	A	—	—

施策2	まちづくり人材、組織の活動支援		
総合評価結果	R元	R2	R3
	A	A	A

施策3	清水港ウォーターフロントの賑わいづくり		
総合評価結果	R元	R2	R3
	A	B	A

施策評価シート（令和元年度～4年度）

分野	1 観光・交流
----	---------

政策	4 まちなかの魅力向上により賑わい創出を推進します
----	---------------------------

施策	1 まちなかの賑わいを生み出すイベントの推進
----	------------------------

施策の目的	静岡まつり、安倍川花火大会、清水みなと祭り、大道芸ワールドカップを主としたイベントのほか、商店街等の団体が創意工夫し、中心市街地を主として各種のイベントを開催することで、まちなかの魅力を向上させ、賑わいの創出を推進することで交流人口の増加を図ります。
-------	---

評価責任者	所属	観光交流文化局 まちは劇場推進課
	氏名	課長 鈴木 高美

（1）総合評価

総合評価	令和元年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	令和元年度は成果指標に含まれるイベントの内、「安倍川花火大会」が台風接近のため、また「静岡おでん祭」が新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となり、結果として目標値を下回ることとなった。しかし、それ以外のイベントについては例年並み又はそれ以上の入込客数を得ており、中心市街地の主要イベント全体として捉えれば、まちなかの賑わいを生み出すという目的を十分に果たしていることから、総合評価としては「A」とした。
	令和2年度	—	理由	新型コロナウイルス感染症の影響により、多くのイベントを実施することができず、設定している指標（中心市街地主要イベント延開催数・中心市街地主要イベント延集客数）について測定することができなかったため、評価することができない。
	令和3年度	—	理由	新型コロナウイルス感染症の影響により、多くのイベントを実施することができず、設定している指標（中心市街地主要イベント延開催数・中心市街地主要イベント延集客数）について測定することができなかったため、評価することができない。
	令和4年度	—	理由	—

※【評価基準】 S：施策の目的が十分に達成されている。A：施策の目的が達成されている。B：施策の目的があまり達成されていない。C：施策の目的が達成されていない。—：評価できない。
 ※総合評価は、原則、指標の達成状況（達成率）に基づき判断する。ただし、指標の分析結果や指標以外の成果等により、指標の達成状況（達成率）と異なる評価とする場合は、その理由を必ず記載すること。

（2）成果指標

成果指標	指標名	現状値	年度	目標値	実績値	達成率（%）	評価	目標値の算出根拠
			1	17	15	88.0%	b	
成果指標	中心市街地主要イベント延開催数 （大道芸ワールドカップin静岡、シズオカ×カンヌウィーク等） （回／年）	56	2	17	5	—	—	平成27年度から30年度の中心市街地における主要イベント開催数を基準とし、新規イベントの創出を見込み算出した。
			3	15	8	—	—	
			4	16	—	—	—	
			1	5,155	4,737	91%	b	
	中心市街地主要イベント延集客数 （大道芸ワールドカップin静岡、シズオカ×カンヌウィーク等） （千人／年）	19,500	2	5,145	32	—	—	平成27年度から30年度の中心市街地における主要イベント入込客数の平均値を基準とし、周年イベントや開催日増による入込客数の増を見込んで算出した。
			3	5,315	567	—	—	
			4	5,135	—	—	—	
			1					
指標成果以外の			2					
			3					
			4					

※【評価基準】 s：105%以上、a：95%以上105%未満、b：85%以上95%未満、c：70%以上85%未満、d：70%未満

(3) 施策を構成する主要事業

主要事業名	主な活動内容	優先順位	年度	現計予算額	前年度からの繰越額	決算額	人工			達成状況
							正規	非常勤	臨時	
夏フェス開催事業補助金	夏のシンボルイベントとして、静岡都心における参加型イベントを開催を予定していたがコロナ禍により中止	2	1	15,000	0	15,000	0.3	0.0	0.0	△
			2	—	—	—	—	—	—	
			3	—	—	—	—	—	—	
			4	—	—	—	—	—	—	
賑わい創出イベントの推進	静岡まつり、ｼｽﾞｶ×ｶﾝｽﾞｰｸ、SHIZUOKA PICNIC GARDEN、静岡おでん祭のみ開催。その他以下のイベントは中止（準備費等のみ補助金交付）安倍川花火大会、応援団フェスティバル、清水みなと祭り、大道芸ワールドカップ in静岡、サンバカーニバル、富士山コスプレ世界大会、中心市街地にぎわい創出事業	1	1	326,673	0	241,932	7.0	0.0	0.0	△
			2	146,424	0	67,822	7.0	0.0	0.0	
			3	265,285	0	130,914	5.1	1.0	0.0	
			4	—	—	—	—	—	—	
ストレンジシード開催事業	駿府城公園及び周辺市街地を舞台とした演劇・ダンスイベント「ストレンジシード」の開催（5月）	3	1	27,000	0	27,000	0.4	0.0	0.0	○
			2	27,720	0	27,500	0.4	0.0	0.0	
			3	24,000	0	23,890	0.4	0.0	0.0	
			4	—	—	—	—	—	—	
			1							
			2							
			3							
			4							
			1							
			2							
			3							
			4							

※主要事業の優先順位は、各施策の目的や指標を達成する上で、重要度、貢献度などの観点から高いものから順位とする。

※達成状況の凡例（◎：計画より進んでいる、○：計画どおり進んでいる、△：計画より遅れている、—：計画実施時期が到来していない、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった）

(4) 今後に向けた見直し等

年度	課題	見直しの方向性
令和元年度	なし	
令和2年度	令和2年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、指標としている17イベントのうち、12イベントを中止することとなった。コロナ禍におけるイベントの開催方法について検討が求められている。	令和2年度においては、イベント開催制限の段階的緩和を受けて、実施可能と判断した一部のイベントについて「新しい生活様式」に基づき開催した。令和3年度以降も、新型コロナウイルス感染症の拡大防止策の検証実績を活かしながら、実施に向けポストコロナ時代のイベントのあるべき姿を構築していく。
令和3年度	令和3年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、指標としている17イベントのうち、9イベントを中止することとなった。アフターコロナに向け、イベントの回復による地域経済の活性化策を検討することが求められている。	イベント開催制限の段階的緩和を受けて令和3年度に実施したイベントにおける新型コロナウイルス感染症の拡大防止策の実績を活かし、アフターコロナ時代のイベントの開催及び持続化に向けた対策を講じていく。
令和4年度	—	—

施策評価シート（令和元年度～4年度）

分野	1 観光・交流
----	---------

政策	4 まちなかの魅力向上により賑わい創出を推進します
----	---------------------------

施策	2 まちづくり人材、組織の活動支援
----	-------------------

施策の目的	まちなかの魅力向上や賑わい創出を図るには、多様な主体がそれぞれの強みを活かして自立的に事業を実施していくことが有効です。これまでの主な担い手であった商店街に加え、有志の商業者グループやまちづくり団体など、まちづくりの新たな担い手となる人材・組織の活動支援を行い、魅力あふれるまちの創出を目指します。
-------	---

評価責任者	所属	経済局 商工部 商業労政課
	氏名	課長 平尾 隆司

(1) 総合評価

総合評価	令和元年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	主要事業を計画通りに実施し、成果指標の目標値を達成したため。
	令和2年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	新型コロナウイルス感染症の影響により、成果指標の目標値を達成できなかったが、主要事業は概ね計画通りに実施できたため。
	令和3年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	主要事業を計画通りに実施し、成果指標の目標値を達成したため。
	令和4年度	—	理由	—

※【評価基準】 S：施策の目的が十分に達成されている。A：施策の目的が達成されている。B：施策の目的があまり達成されていない。C：施策の目的が達成されていない。—：評価できない。
 ※総合評価は、原則、指標の達成状況（達成率）に基づき判断する。ただし、指標の分析結果や指標以外の成果等により、指標の達成状況（達成率）と異なる評価とする場合は、その理由を必ず記載すること。

(2) 成果指標

成果指標	指標名	現状値	年度	目標値	実績値	達成率（%）	評価	目標値の算出根拠
			1	7件	7件	100.0%	a	
2	7件	6件	86%	b				
3	8件	8件	100.0%	a				
4	8件	—	—	—				
指標以外の成果			1					
			2					
			3					
			4					

※【評価基準】 s：105%以上、a：95%以上105%未満、b：85%以上95%未満、c：70%以上85%未満、d：70%未満

(3) 施策を構成する主要事業

主要事業名	主な活動内容	優先順位	年度	現計予算額	前年度からの繰越額	決算額	人工			達成状況
							正規	非常勤	臨時	
I Loveしずおか協議会との連携	①I Loveしずおか協議会の各部会への参画 ②I Loveしずおか協議会主催イベントへの参加	1	1	0	0	0	0.7	0.0	0.0	○
			2	0	0	0	0.7	0.0	0.0	
			3	0	0	0	0.7	0.0	0.0	
			4	—	—	—	—	—	—	
新たな商業グループの活動への助成	①商業活性化グループ事業への助成	1	1	4,000	0	2,866	0.4	0.0	0.0	○
			2	4,000	0	2,603	0.4	0.0	0.0	
			3	4,000	0	3,099	0.4	0.0	0.0	
			4	—	—	—	—	—	—	
商店街への助言サポートの推進	①商店街団体へのアドバイザーの派遣 ②商店街団体との意見交換会での講演会の実施	3	1	200	0	0	0.1	0.0	0.0	○
			2	200	0	0	0.1	0.0	0.0	
			3	300	0	100	0.1	0.0	0.0	
			4	—	—	—	—	—	—	
			1							
			2							
			3							
			4							
			1							
			2							
			3							
			4							

※主要事業の優先順位は、各施策の目的や指標を達成する上で、重要度、貢献度などの観点から高いものから順位とする。

※達成状況の凡例 (◎：計画より進んでいる、○：計画どおり進んでいる、△：計画より遅れている、—：計画実施時期が到来していない、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった)

(4) 今後に向けた見直し等

年度	課題	見直しの方向性
令和元年度	新型コロナウイルス感染拡大の影響により、2月以降のイベント開催が困難であった。イベント開催等における感染防止対策の徹底と、まちの賑わい創出のための活動の両立が課題である。	新型コロナウイルス感染症の影響を注視しながら、各まちづくり組織等に寄り添って、感染防止対策を徹底したイベントの実施やまちづくり人材の育成活動を支援していく。
令和2年度	昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、例年と比較してイベント開催が困難であった。イベント開催等における感染防止対策の徹底と、まちの賑わい創出のための活動の両立が課題である。	新型コロナウイルス感染症の影響を注視しながら、各まちづくり組織等に寄り添って、感染防止対策を徹底したイベントの実施やまちづくり人材の育成活動を支援していく。
令和3年度	昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大の長期化により、イベントの開催が困難な時期があった。目標値は達成できたが、今後もまちの賑わい創出のための活動を回復させていくことが課題である。	引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を注視しつつ、各まちづくり組織等との連携をさらに強化し、寄り添いながら、感染防止対策を徹底したイベントの実施やまちづくり人材の育成活動、新しいグループの結成・活動を支援していく。
令和4年度	—	—

施策評価シート（令和元年度～4年度）

分野	1 観光・交流
----	---------

政策	4 まちなかの魅力向上により賑わい創出を推進します
----	---------------------------

施策	3 清水港ウォーターフロントの賑わいづくり
----	-----------------------

施策の目的	清水港周辺地区の魅力を高め、ウォーターフロントから地域経済の活性化が進む港町・清水の賑わい創出を図るためには、海洋文化拠点構想をはじめ、清水港を基軸に取り組み賑わい創出に向けた関連事業を有機的に結び付けていく必要があります。特に平成27年度に設置された「清水都心ウォーターフロント地区開発推進会議」では、魅力ある港にするための開発基本方針の策定や国際クルーズ旅客受入機能高度化施設整備事業の推進などによるみなとまちづくりが官民連携で進められています。こうした清水港ウォーターフロントの賑わいづくりに向けた関連事業を局間連携により推進します。
-------	--

評価責任者	所属	経済局 海洋文化都市推進部 海洋文化都市政策課
	氏名	課長 谷川原 賢一

(1) 総合評価

総合評価	令和元年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	主要事業のうち清水港開港120周年記念事業、清水港客船誘致事業については、成果指標の達成評価はSであるが、海洋文化施設整備事業について、成果指標がAであるため。
	令和2年度	B：施策の目的があまり達成されていない。	理由	新型コロナウイルスの影響により客船等寄港数や清水中心市街地の歩行量が未達成だったが、施策を構成する主要事業において、3分の2以上が目標を達成できており、清水港ウォーターフロントの賑わいづくりを推進しているため。
	令和3年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	昨年に引き続き、新型コロナウイルスの影響により清水中心市街地の歩行者量については未達成であったが、他の指標については目標を達成できていること、また、コロナ回復後を見据えた港湾整備などは着実に進められており、清水港ウォーターフロントの賑わいづくりの推進が図られているため。
	令和4年度	—	理由	—

※【評価基準】 S：施策の目的が十分に達成されている。A：施策の目的が達成されている。B：施策の目的があまり達成されていない。C：施策の目的が達成されていない。—：評価できない。
 ※総合評価は、原則、指標の達成状況（達成率）に基づき判断する。ただし、指標の分析結果や指標以外の成果等により、指標の達成状況（達成率）と異なる評価とする場合は、その理由を必ず記載すること。

(2) 成果指標

成果指標	指標名	現状値	年度	目標値	実績値	達成率（%）	評価	目標値の算出根拠
			1	2	3	4		
成果指標	海洋文化施設建設事業の進捗	—	1	20%	15%	75.0%	a	事業の一時停止により、事業スケジュールを「R元～R5」までを「R元～R7」までへ延長した。 R2～R7までの事業進捗状況を各年度13.3%ずつ（計80%）進捗するものとし、目標値として設定した。 ※R元目標値：20%
			2	33%	33%	100%	b	
			3	47%	47%	100%	a	
			4	60%	—	—	—	
	「開港祭」の来場者数	—	1	100,000人	105,518人	105.5%	s	開港100周年実績=140万人 今回の予算規模×1/2=70万人 うち清水みなと祭りが60万人 残り10万人を120周年目標値として設定した。
			2	—	—	—	—	
			3	—	—	—	—	
			4	—	—	—	—	
	客船等寄港数	40隻 (R元年度)	1	22	40	181.8%	s	令和4年度は、コロナ禍による政府の入国制限等に左右され外国船寄港の見通しが立たないため、邦船の寄港数としてはここ20年で最高であった、令和3年度の実績値を目標として設定した。 ※令和3年度については、緊急事態宣言が続いたため、昨年度の目標値と同数とした。 【外的要因】新型コロナウイルス感染症の動向に左右される。
			2	11	7	63.6%	d	
			3	11	12	109.0%	a	
			4	12	—	—	—	
	清水の中心市街地の歩行者通行量	25,670人 (平成28年度)	1	25,670人	34,094	106.7%	s	平成28年度調査※における清水の中心市街地の歩行者通行量（25,670人）を現状維持とし目標を設定。 ※静岡市中心市街地活性化検討協議会（事務局：静岡市商工会議所 清水事務所）実施調査「歩行者交通量・まちなかアンケート」報告書
			2	25,670人	14,935	58.2%	d	
			3	25,670人	15,108	58.9%	d	
			4	25,670人	—	—	—	
指標以外の成果	・清水港開港120周年事業では、上記の開港祭以外にも、①120周年記念式典（令和元年8月4日）、②海フェスタしずおか（令和元年7月13日～8月4日）、③折戸湾環境創造プロジェクト（平成31年4月20・21日、令和元年8月24日、9月28・29日）、④120周年記念シンポジウム（令和2年2月1日）、⑤クリーンアップ作戦@三保内浜（令和2年2月22日）等の主催事業及び連携事業を実施した結果、来場者及び参加者数は合計1,565,864人となり、市民をはじめとする多くの方々に対して、清水港の魅力情報を発信し、そして清水港長期構想等の発信を通じて、20年後の目指す姿を共有し、次世代に向けた第一歩を踏み出した。⑥清水港・みなと色彩計画30周年記念事業（海上見学会・記念誌作成・記念式典（令和4年3月16日：中止））							

※【評価基準】 s：105%以上、a：95%以上105%未満、b：85%以上95%未満、c：70%以上85%未満、d：70%未満

(3) 施策を構成する主要事業

主要事業名	主な活動内容	優先順位	年度	現計予算額	前年度からの繰越額	決算額	人工			達成状況
							正規	非常勤	臨時	
海洋文化施設整備事業	PFI事業者選定の準備を整えR2. 2に事業者公募を開始したが、コロナの影響を受けてR2. 5に公募を取り下げ、事業を一旦停止していた。R4. 2事業再開を決定し、実施方針及び要求水準書(案)の公表を行うとともに、債務負担行為を上程し、議決された。	1	1	1,413,930	—	1,007,053	3.0	0.0	0.0	—
			2	4,881	304,751	307,859	3.0	—	0.0	
			3	3,449	0	3,043	3.0	—	0.0	
			4	—	—	—	—	—	—	
清水港開港120周年記念事業	清水港開港120周年記念式典、シンポジウム、企画展等の開催	1	1	45,000	0	45,000	2.0	0.0	0.5	—
			2	—	—	—	—	—	—	
			3	—	—	—	—	—	—	
			4	—	—	—	—	—	—	
清水港海づり公園整備事業	清水港海づり公園の整備 R1年度 棧橋基礎工(鋼管杭打設) R2年度 棧橋基礎工(鋼管杭打設、杭切断等) R3年度 棧橋基礎工(杭切断等)、修正設計 R4年度 棧橋上部工 R5年度 棧橋上部工	2	1	402,000	0	160,200	1.2	0.0	0.0	○
			2	94,000	241,800	241,800	1.2	0.0	0.0	
			3	8,300	94,000	96,420	1.2	0.0	—	
			4	—	—	—	—	—	—	
みなとオアシス運営事業	情報発信拠点の管理、オアシスイベント等の実施	3	1	5,593	0	5,369	0.3	0.0	0.0	○
			2	4,177	0	4,038	0.3	0.0	—	
			3	2,439	—	2,344	0.3	0.0	—	
			4	—	—	—	—	—	—	
清水港客船誘致の推進	客船・帆船の誘致活動、寄港時における歓迎イベントの開催	2	1	56,385	0	56,385	1.5	0.5	0.5	○
			2	45,340	0	15,871	1.0	—	1.0	
			3	24,000	0	19,500	1.0	—	1.0	
			4	—	—	—	—	—	—	
駿河湾フェリー運航支援事業	駿河湾フェリーの運航及び環駿河湾観光交流活性化協議会に係る経費の負担並びに利用促進事業	3	1	25,800	0	21,978	1.4	0.0	0.0	○
			2	28,800	0	26,874	1.4	0.0	—	
			3	42,600	0	42,600	1.4	0.0	—	
			4	—	—	—	—	—	—	
清水港・みなと色彩計画の推進	①清水港・みなと色彩計画推進協議会(事務局は海洋文化都市推進本部)への負担金の交付 ②清水港・みなと色彩計画推進協議会による各事業の実施(色彩協議、協議会・アドバイザー会議・色彩セミナーの開催、色彩計画PR活動等)	3	1	1,056	0	1,056	2.0	0.0	0.0	○
			2	1,056	0	1,056	2.0	0.0	—	
			3	2,258	0	2,238	2.0	0.0	—	
			4	—	—	—	—	—	—	
清水都心ウォーターフロント活性化推進事業(フリトラ市の開催)	①清水フリトラ市の開催(毎月第2日曜日) ②清水港線遊歩道の賑わい創出に向けたPR活動(広報)の実施(以上 R2年度)	5	1	2,200	0	2,200	0.3	0.0	0.0	—
			2	2,090	0	1,742	0.3	—	0.0	
			3	—	—	—	—	—	—	
			4	—	—	—	—	—	—	
清水都心ウォーターフロント活性化推進事業(清水港線跡遊歩道整備)	①島崎町交差点整備に向けた地元住民及び道路管理者、交通管理者との協議実施(R1年度) ②江尻側エントランス広場整備のための用地取得(R3年度) ③エントランス広場及び交差点整備の実施設計(R3年度) ④エントランス広場及び交差点の整備(R3年度)	2	1	0	0	0	2.0	0.0	0.0	△
			2	105,350	0	44	2.0	0.0	0.0	
			3	0	105,306	55,178	2.0	0.0	—	
			4	—	—	—	—	—	—	
清水都心ウォーターフロント活性化推進事業(WF地区デザイン提案検討)	①地区としての一体的な方向性を持った都市デザインの提案・検討(以上 R2年度)	2	1	5,000	0	4,829	0.6	0.0	0.0	○
			2	5,000	0	4,829	0.6	0.0	0.0	
			3	5,000	0	4,829	0.6	0.0	0.0	
			4	—	—	—	—	—	—	
清水都心ウォーターフロント活性化推進事業(光の景観まちづくり)	①ライトアップ・イルミネーション事業の実施(R1年度～) ②夜景フォトコンテストの開催(R1年度)	4	1	25,222	0	21,283	1.5	0.0	0.0	—
			2	9,100	0	7,480	1.5	0.0	—	
			3	—	—	—	—	—	—	
			4	—	—	—	—	—	—	

※主要事業の優先順位は、各施策の目的や指標を達成する上で、重要度、貢献度などの観点から高いものから順位とする。

※達成状況の凡例(◎:計画より進んでいる、○:計画どおり進んでいる、△:計画より遅れている、—:計画上実施時期が到来していない、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった)

(4) 今後に向けた見直し等

年度	課題	見直しの方向性
令和元年度	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症により大きな影響を受けた社会経済状況に対応するため、海洋文化施設整備事業の事務手続きを一時停止し、事業の見直しを行う必要が生じた。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業者が参画しやすい公募条件や要求水準書等を精査、検討し、PFI事業としての成立の目途が立った段階で、早期の再開を目指す。
	<ul style="list-style-type: none"> 夏以降の台風や天候不順により海況が悪化し、欠航が増えた。また令和2年2月以降は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、乗船客も軒並み減少した。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍により団体のバス旅行の需要が低下し、乗船客も減少したが、修学旅行や教育旅行の誘致に力を入れ、団体乗船客の増加を図りたい。 利用促進事業として、県や一社の半額・無料キャンペーンと連動し、本市独自事業である市内小学生無料乗船キャンペーンを保護者まで対象を広げ、利用してもらいやすい仕組みとする。
	<ul style="list-style-type: none"> 清水都心ウォーターフロント活性化推進事業では、フリトラ市やイルミネーションの開催時には一定のにぎわいがあるが、平常時、通勤・通学以外の自転車・歩行者通行量は多いとは言えない。 	<ul style="list-style-type: none"> 清水庁舎や新病院移転の動向に注視しつつ、効果的な回遊性向上施策、イベントを実施することで、清水都心ウォーターフロント地区の活性化につなげていく、
	<ul style="list-style-type: none"> 屋外イベントであったため、天候不良時の対応に難儀した。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業計画の構築時には、雨天時の対応策も同時に検討する。
令和2年度	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症により大きな影響を受けた社会経済状況に対応するため、海洋文化施設整備事業の事務手続きを一時停止し、事業の見直しを行う必要が生じた。 新型コロナウイルスの影響により、調査以来過去最低の人数へと落ち込んだ。 前年度は清水港への大型客船の入港や周辺イベント開催により大幅に通行量が増加していた分、一般見学者の入場禁止や寄港数の減少、コロナ対策による乗船定員等の影響で通行量が激減した。 新型コロナウイルスの影響により、乗船客や運航便数が減少し事業収入が著しく減少した。 清水都心ウォーターフロント活性化推進事業（清水港線跡遊歩道整備）：用地交渉に時間を要しているため予定していた事業が延期された。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業者が参画しやすい公募条件や要求水準書等を精査、検討し、PFI事業としての成立の目途が立った段階で、早期の再開を目指す。 事業の着実な実施（岸壁の一般見学者への解放、客船の定員解除、また外国船の運航許可等）により、歩行者通行量の早期回復を目指す。 市内回遊性を高める方策を実施する。 経営改善戦略を策定し、当該戦略に沿った経営により事業の安定化を図る。 清水都心ウォーターフロント活性化推進事業（清水港線跡遊歩道整備）：引き続き用地交渉の協議を進めていく。
令和3年度	<ul style="list-style-type: none"> 海洋文化施設整備事業について業務再開に向け準備、調整等を進める必要がある。【海洋文化施設整備】 R2年度に引続き、新型コロナウイルスの影響により、大型客船の入港や、港への一般見学者の入場制限、周辺イベントの中止等により、清水港周辺の人流が減少した。みなとオアシスを情報発信拠点として改善するなど、今後の回復に向け工夫した取組が必要がある。【客船誘致事業・みなとオアシス運営事業】 駿河湾フェリーの運営は、新型コロナウイルス感染症の影響や燃料費高騰により、依然として厳しい状況にある。特に団体旅行客の乗船が、著しく減少している。【駿河湾フェリー運航支援事業】 清水港線跡遊歩道整備について、用地交渉は終了し、歩道整備をすすめたが、緑地整備の完成までいたらなかった。【清水都心ウォーターフロント活性化推進事業】 	<ul style="list-style-type: none"> 事業者が参画しやすい公募条件や要求水準書等を精査、検討し、PFI事業としての成立の目途を立てることができるよう、早期の事業着工を目指す。【海洋文化施設整備】 事業の着実な実施（岸壁の一般見学者への解放、客船の定員解除、外国船の運航許可等）により、人流の早期回復を目指す。また、みなとオアシスを情報発信拠点として、ポスターやチラシの配架だけでなく、より多くの人の目に留まり、情報を得やすい方法を検討するなど。回遊を促すPRに努めていく。【客船誘致事業・みなとオアシス運営事業】 中部横断自動車道の開通を好機と捉え、山梨や長野からの教育旅行を誘致出来るよう、駿河湾フェリーを教育の場として活用するコンテンツの拡充を図る。また、個人旅行客の利用を増やすため、二次交通を充実させたり、自転車での旅を推進するモデルコースをPRする。【駿河湾フェリー運航支援事業】 清水港線跡遊歩道整備について、引き続き、緑地整備を進めていく。【清水都心ウォーターフロント活性化推進事業】
令和4年度	—	—